其着物は何や、上が無地で下に模様が有たら裾模様やが、それは反對や無いか。上に模様が有て下が無地やがナ。』

『上はお襦袢着てるのや。下は何も無い依つて風呂敷卷いて其上から帶してるのや。』

『好え度胸やなア。襦袢と風呂敷で街路歩くちウで此女は……。何でも宜え。支度が出けたらボツボツ出よか。羅宇仕替の荷の中へ御馳走が入れたアる依て、齒入屋の箱と一荷にして。喜イ公。お前擔げて出たり。途中で又替り合ふさかい。それから露路出る時は皆鳥渡派手に出えや。チョイ〳〵コラ〳〵花見や〳〵と踊つてナ。』

『俺い丈け夫れ勘忍して貰ふは。酒も飲まんとそんな阿呆らしい事ようせんワ。』

『飲で醉てると思ふて遣りんかいナ。そこがそれ、氣で氣を養ふのや。此近所で花見にでも往こかてな奴は一人も有れへん。一番誇示かしたるね。』

『ショム無い事するねんナ。』

『さア皆踊りや。アヽチョイ〳〵花見や。』

『ヨイト〳〵花見や。』

『コラ〳〵花見や。』

『チョイ〳〵。』

『コラ〳〵。』

『花見や。』

『相な。』

『コラ何奴や要らん事云やがるのん。相なちウ事が有るかい。コラ〳〵ヨイト〳〵。』

『花見ぢや。』

『夜脫けぢや。』

『誰やいな異しい事云ふのん。一遍撲いたれ』

ワア〳〵云ひ乍ら櫻の宮へ掛つて參ります、其道中の賑やな事。（下座唄、三下り〆春の長い日…）

『オーイ。皆早ふおいでやー。』

『鳥渡待つてんかいナ。妾い等女やさかい、其樣早　歩かれへん……』

『オイ待つたれ〳〵。風呂敷が足に纏ひついて難儀してよる。落としよつたら騷動もんや。』

『まアお掛けやす。おでんの熱々がムります。景色の佳え所が明いてござります。』

『何ふだすな。此邊の茶店で息んで、あとの者を待ち合しまへふか。』

『錢有るかい。』

『阿呆。大きな聲出すな。虛勢張てるのやがナ。……併し茶店も考へもんだすなア。道具が汚なふて